



一歩一歩 第13号

平成28年 6 月 3 日（金）発行

校長 深谷 浩一

「恩返し元年」の五つのミッション (1)

創立40周年にあたり、本校の原点ともいえるべき「開校三年目の奇跡」を資料をもとに再現してみましたが、いかがでしたでしょうか。町民を歓喜の渦に巻き込む奇跡を起こした本校で、今こうして働ける幸せを感じています。

しかしながら、私はただ、本校の過去の偉業を讃^{たた}えるためだけに、本稿を書いたのではありません。また、昔を懐かしみ、現在の状況を嘆くために書いたわけでもありません。ふって沸いたような突然の甲子園出場に、助けてくれる卒業生がひとりもない本校を町ぐるみで支援し甲子園に行かせてくれた旧明野町に対して、感謝の気持ちを忘れず町への恩返しに心を新たにしたいからにほかなりません。

そこで、今年を町への「恩返し元年」と定め、校長として五つのミッション（使命）を課したいと思います。

最初のミッションは、

① 地域への貢献 ～出前授業をととしたキャリア教育の推進～ です。

これまで実施してきた明野中学校や明野地区の小学校に対する出前授業を充実させ、今後さらに連携・強化を図るとともに、特別支援学校等との交流や連携を促進することにより、地域社会に貢献します。特に今年度は、ALTとともに幼稚園を訪れ、英語を教えることで幼稚園児と交流ができないかを模索します。

「中学校との連携なら理解できるが、小学校や幼稚園と連携するのは、なぜ？」という疑問を持つ人がいるかも知れません。中学校との連携なら、出前授業により中学生が本校に対する理解を深め、将来本校に入学したいという生徒を増やす、ということも考えられますが、小学生や幼稚園生では直接高校につながっていないのではないかという疑問をもたれるかも知れないからです。

しかし、私が生徒の皆さんに小学校や幼稚園に出向いてもらいたいのは、皆さんは卒業してしまったら、小学校や幼稚園で児童や園児に対して指導することは、先生にならない限り絶対にできない経験だからです。もし、あなたが幼稚園に出向き、園児と接する機会をもったことがきっかけで、「将来は幼稚園で働きたいな。」と考え、先生になる道を選ぶかも知れません。本校はあなたが自分の進路を決めるために必要な場を提供したいのです。

その意味では、小学校や幼稚園訪問は、地域への貢献という側面とともに、本校生自身の「キャリア教育」の場でもあるのです。